

漱石を 巡る①

『草枕』編

【モデルコース】熊本市～玉名・天水

大江旧居 (徒歩圏内) 車で3分	水前寺成趣園 車で30分	峠の茶屋公園 車で15分	前田家別邸 車で3分	草枕交流館 車で1分	草枕温泉てんすい
------------------------	-----------------	-----------------	---------------	---------------	----------

大江旧居(第3旧居)

漱石は4年余りの熊本在住中、6回も引っ越しをしており、こちらは3番目の旧居です。もともと大江村(現在の新屋敷1丁目)にあったものを移築復元しており、『吾輩は猫である』の多々羅三平のモデルといわれる五高生俣野義郎もこの家に住んでいました。また、『草枕』の題材になった玉名市小天への旅行には、この家から出発したそうです。

住 熊本市中央区水前寺公園21-16 **☎** 096-385-2266
P 無料10台 **時** 9:30～16:30 **休** 月曜(祝日の場合は翌日)
料 大人・高校生200円、小・中学生100円、未就学児無料
 (熊本市内の小・中学生、65歳以上の方は無料)

水前寺成趣園(水前寺公園)

阿蘇山の伏流による湧水や四季折々の景観美を楽しめる回遊庭園。漱石は、東大予備門時代からの親友である正岡子規の影響で、俳句をたしなんでいました。熊本在住中、漱石はこの場所を大変気に入り、度々訪れては数々の俳句を詠んでいます。園内には漱石の句碑もあります。

住 熊本市中央区水前寺公園8-1 **☎** 096-383-0074
P なし(近隣に有料駐車場あり) **時** 8:30～17:00(入園16:30まで)
休 なし **料** 大人(16歳以上)400円、小人(6～15歳)200円

峠の茶屋公園

『草枕』の題材となった小天温泉への旅行時に通ったのが、鳥越峠と野出峠。当時、この2つの峠には茶屋がありました。現在、鳥越峠には茶屋が再建され、休憩所や売店を併設した峠の茶屋公園になっています。茶屋の内部は、漱石に関する資料を展示した資料館として公開されています。

住 熊本市西区河内町岳5-4
☎ 資料館 096-277-2157/売店 096-277-2154
P 無料12台 **時** 資料館 9:00～17:00/売店 11:00～17:00 **休** 火曜

前田家別邸

熊本の名士 前田案山子(かがし)が来客をもてなすために建てた邸宅。漱石はこの別邸を訪れ宿泊した旅をもとに小説『草枕』を書きました。この屋敷と周辺の情景や、作中に出てくる出来事の多くは漱石の実体験に基づくものだとか。今も漱石が宿泊したひと間(漱石館)と浴場が残されています。

住 玉名市天水町小天766-3
☎ 0968-82-4511(玉名市草枕交流館) **P** 無料2台
時 9:00～17:00 **休** 水曜 **料** 無料

草枕交流館

『草枕』の歴史資料館と観光案内施設。漱石のあゆみや、小説『草枕』について資料や映像で分かりやすく紹介されています。小説に登場する志保田家のモデルとなった前田家一族の系図や遺された資料、前田家別邸の完全復元模型などが展示されています。

住 玉名市天水町小天735-1 **☎** 0968-82-4511
P 無料10台 **時** 9:00～17:00 **休** 水曜 **料** 無料

草枕温泉てんすい

有明海から島原半島を見渡す景色が見える、小天の丘にある温泉複合施設。100%天然温泉を使用しており、露天風呂は、目の前にみかん畑、有明海、島原半島が広がる絶景。夕日が沈むころには、有明海や、海の向こうの雲仙普賢岳がみかん色に染まるのが見えます。景色を眺めつつ、漱石の生きた時代に思いを馳せながら癒しのひとときを。温泉のほか、物産館や宿泊施設、キャンプ場なども併設しています。

住 玉名市天水町小天511-1 **☎** 0968-82-4500
時 10:00～21:00 **休** 不定

宿泊もおすすめ!

おあま 小天温泉

明治30年年末から明治31年年始めに漱石も訪れたという「小天温泉」。熊本市街からもっとも近い温泉地で、当時は5～6軒の温泉宿がありました。現在は、明治元年創業の温泉旅館「那古井館(なこいかん)」と、公営の温泉交流センター「草枕温泉てんすい」の2つがあります。『草枕』に出てくる那古井の郷から名付けられた温泉旅館「那古井館」は、明治の雰囲気漂う書斎を備えた部屋があるなど、文学好きにはたまらないお宿です。



董程の
小さな人に
生まれたし

しめ縄や
春の水湧く
水前寺

おい、と声をかけたが返事がない

温泉や
水滑らかに
去年の垢

元日の
山を後ろに
清き温泉